

学校名	只見町立朝日小学校
授業者	松永 真紀

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

住みよいくらしをつくる 水はどこから

1-2. 学年

4 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

社会

1-4. 単元の概要

生活に必要な飲料水を確保する事業や、公衆衛生のためにどのような人が働いているのかを実際に見学したり、資料を活用して調べたりして理解する。さらに、水の循環という地球規模の大きな循環の川の上流に自分達が生活していることを実感させ、下流の地域の生活や問題について考えながら自分達の生活を見直していこうとする態度を育成していく。さらに、総合的な学習の時間「水をさぐれ」での学習と関連させながら、学習を進めていくことにより、地域や人やものとのつながりを実感し、自分たちにできることは何かを考え実践しようとする中で、只見愛を育てていく。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

単元のねらい

- 飲料水に関わる仕事の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解し、それらの仕事に関心を持ち、意欲的に調べ、社会の一員としてよりよい生活環境を考えようとする。
- 飲料水に関わる仕事について学習問題を見出し、的確に見学・調査したり、具体的資料を活用したりして必要な情報を集めて追究し、分かったことや考えたことを適切に表現する。

単元設定の理由

(1) 児童の実態

特別支援学級児童1名を含む5名の学級である。何事にも意欲的に取り組むことができる児童が多く、社会科については、これまで自分達の安全な暮らしを守るために、さまざまな施設の人と地域の人々が協力しあって活動しているということを理解するとともに、自分でできることは何かを考えるなどの活動を行い、**進んで参加する態度**を育ててきた。また、見学学習の中で、自分が知りたいことを明確にし、その問題（課題）を解決するために、話を聞いたり質問したりすることでコミュニケーションを行う力が徐々に高まってきている。しかしその一方で、その場で聞きたいことができたときに質問できない、ふいに質問されたときに進んで話すことができないなどの課題も多く見られる。また普段の授業においては、自分の意見をもつことができる児童が多いが、少人数であるために多様な考えにふれる経

験や話し合い活動を通してよりよいものを生み出す経験が乏しいので、友達の意見をきいてさらに思考を広げたり深めたりしていけるように話し合い活動をコーディネートしていく必要がある。

(2) 指導観

本単元では、飲料水に関わる仕事の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解し、社会の一員としてよりよい生活環境を考えようとするのが大きな目標の一つである。実際の施設を見学したり話を聞いたりする活動を取り入れることで、実感をともなった理解ができるようにしていく。また、見学学習では児童が主体的に話を聞いたり質問したりすることで、コミュニケーションを行う力を高められるようにしていきたい。

本時は、これまで学習してきたことをもとに、水資源を守るために自分たちにできることを考える時間である。只見町は川の上流に位置しているために、豊かできれいな水に恵まれた環境であり、なかなか水の問題について実感できないと思われる。そのために、これまでの学習をふりかえり、水の循環の中にある施設などの役割や自分たちは水源のある上流で生活しているということを確認したり、下流の地域や世界での水についての問題を提示したりすることで、多面的・総合的に考え、自分たちの水の使い方が他地域の人々の生活に影響をあたえるということに気づかせていきたい。

また、自分でできることは何かを考え話し合う段階では、自分の考えを付箋に記入し明確にすることで、自分の考えをきちんと相手に伝えられるようにする。その後、全体で多様な意見を出し合い、共通点や相違点に目をむけて分類、整理していく中で、一人一人のコミュニケーションを行う力を高めていきたい。教師は、児童が考えを深められるようになぜその取り組みをしていくのかということ子どもたちからひきだせるように話し合いをコーディネートしていくようにする。

さらに話し合いで深まった自分の考えや、他地域での取り組みなどを生かして、自分ができるところを実践していこうという意欲も高められるようにしていきたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

進んで参加する態度

イ 飲料水に関わる仕事について関心を持って調べようとしている。

川や森林を守る活動に関心を持ち、節水などの取組に協力することができる。

他者と協力する態度

ア 生活の案下にある飲料水や水の使用量の変化から、飲料水の確保対策や事業について関心をもって調べようとしている。

ケ 調べたり考えたりしたことを、新聞にまとめることができる。

つながりを尊重する態度

ウ 川や森林を守る活動に関心を持ち、節水などの取り組みに協力しようとしている。

サ ダムや水源林の働きについて理解している。

批判的に考える力

エ 飲料水の確保対策や事業について学習問題や学習計画を考える。

未来を予測して計画を立てる力

オ 上下水道についての見学学習の計画を考える。

コ 上下水道は、地域の人々の健康な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。

多面的・総合的に考える力


カ 下水処理場と浄水場が水をくりかえし使えるようにしていることによって社会にとってどんな意味があるのか、どんなよいことがあるのかを考えている。

コミュニケーションを行う力

キ 大切な水資源を守るための取り組みについて、他地域のことも考えて自分ができていることを表現している。

ク 飲料水に関わる仕事について見学する中で、施設の方と意欲的に関わり、課題を解決する。

1-7. 単元の展開（全11時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 2	生活の中で水を使う場面を想起し、自分たちの生活が大量の水に支えられているという理解する。 水の循環や、生活の中で使用している水について話し合う活動を通して、学習問題をつくる。	ア 生活の案下にある飲料水や水の使用量の変化から、飲料水の確保対策や事業について関心をもって調べようとしている。 エ 飲料水の確保対策事業について学習問題や学習計画をたてる。
3 4 5 6 7	浄水施設や下水処理施設を見学し、水をきれいにする仕組みや、そこで働く人の工夫や努力について理解する。 	イ 飲料水に関わる仕事について関心を持って調べようとしている。 ク 飲料水に関わる仕事についての的確に見学・調査し、必要な情報を集めている。 コ 上下水道は、地域の人々の健康な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。 カ 下水処理場と浄水場が水をくりかえし使えるようにしていることによって社会にとってどんな意味があるのか、どんなよいことがあるのかを考えている。
8	水の循環の中の、ダムや水源林の働きについて調べ理解する。	サ ダムや水源林の働きについて理解している。
9	学習してきたことをもとに、水資源を守るために自分たちにできることを考える。	キ 大切な水資源を守る取り組みについて他地域のことも考えて自分ができていることを表現している。
10 ・ 11	学習したことを新聞にまとめる。	ケ 調べたり考えたりしたことを、新聞にまとめている。 ウ 川や森林を守る活動に関心を持ち、節水などの取り組みに協力しようとしている。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元10時間中の2時間目 / 単元15時間中の4,5時間目

2-2. 本時の目標

大切な水資源を守るために自分たちにできることを考え、共通点や相違点に着目して分類、整理したり、他地域の取組について理解したりしながら自分の考えを深め、表現することができる。

（思考・判断・表現）〈多面的・総合的に考える力、コミュニケーションを行う力〉

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>(1) 前時までの学習を振り返り、分かったことや考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水はめぐっている。 ・ 只見町は、川の上流にある。 <p>(2) 他地域の問題について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京の川の色は、黒い。汚れている。 ・ 川を汚している原因はなんだろう。 ・ 食器を洗うときの洗剤や油なども原因になっている。 ・ 川に浮いているゴミは、人が捨てたもの。 ・ 伊南川の川原にも、ゴミが捨ててある。 <p>(3) 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○ 前時までの学習内容をふりかえり、自分たちが生活している位置や、さまざまな施設が連携し水を供給しているということを確認する。その際、総合的の時間で学んだ日本海とのつながりも意識させるようにする。</p> <p>※ 水質問題の現状などを紹介し、その原因を考えさせることにより上流に住んでいる自分達の生活も影響しているということに着目させるようにする。</p> <p>〈多面的・総合的に考える力〉</p> <p>○ 川を汚している原因として生活排水があることを伝える。</p> <p>○ 川に大量に浮いているゴミが、どこから来たものなのかを考えさせたり、学区内を流れる川にも多くのゴミがあることを伝えたりして、めあてにつなげる。</p>
<p>2 水資源を守るために、自分たちに何ができるか考える。</p> <p>(1) 自分たちにできることを考え、付箋に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ むだづかいしない。 ・ 汚れた水を流さない。 	<p>○ 自分の考えを付箋に表現させることで、自分の意見を明確にして活動に臨むことができるようにする。</p> <p>※ 友だちの考えとの共通点や相違点に着目して、自分たちでできることを分類、整理していくようにする。また、話し合いの際、なぜそのような取り組みを</p>

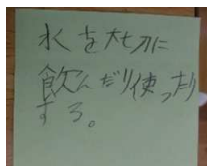
大切な水を守るために、自分たちにできることは何か



- ・ ゴミ拾いをする。

(2) 全体で考えを分類, 整理し, 自分の考えを深める。

- ・ 水を大切にする
- ・ 水をよごさない
- ・ ゴミを捨てない
- ・ 行動する



3 本時のまとめをする。

(1) 話し合いでの児童の意見をもとに, 本時のまとめをする。

することがいいのかも話することができるように教師が話し合いをコーディネートし, 考えを深められるようにする。〈コミュニケーションを行う力〉



大切な水を守るためには、自分だけでなく他の地いきの人のことも考えて、みんなで協力し合うことが大切。

(2) 実際に水質資源を守るための取り組みや, 行っている人々の思いを知る。

- ・ 朝日地区でも, 地域のゴミ拾いをする「ちょボラ」活動がある。
- ・ 朝日小の人も, 参加している。
- ・ きれいだと思っていた地域にもたくさんゴミがあるのか分かった。



○ 地域で行われたボランティア活動の写真を提示し, 朝日小の子どもも参加している事を伝えることにより, 自分達の地域をきれいにしようと行動している人がいることを知らせる。

○ 他地域の取り組みや人々の思いも知ることにより, 自分達の生活もそのような地域とつながっているということを意識させるようにする。

(3) 学習感想を書く。

- ・ 川の下流にいる人のことも考えて, 水を汚さないようにしたい。
- ・ ごみを捨てないようにみんなに呼びかけた。
- ・ これからはゴミ拾いなどに参加してみたい。

◇ 大切な水資源を守るために, 他地域のことも考えて自分たちにできることを表現している。

3. 今回の活動の自己評価

成果

- ストーリーマップの中で総合的な学習の時間での学習と、本時の学習内容のつながりが明確になっていたことにより総合的な学習の時間で学んだことを生かして学習を進めなど、学びをつなげることができた。
- 自分が知りたい事を明確にもち実際の施設を見学したり、話を聞いたりすることで、施設の方と主体的に関わり、コミュニケーションを行う力を高めることができた。
また、話の中で朝日地区の地下水がそのままでも飲めるほどきれいであるために、水道水にはほとんど薬品を使用していないことを教えていただき、地域の自然の豊かさを知り只見愛を育むことができた。
さらに、下水処理場で汚れた水をきれいにしてから川に戻していることを学び、地域の環境だけでなく下流の環境のことも考えていくことの大切さに気付くことができ、多面的・総合的に考える力を高めることができた。
- 本時においては、自分たちの地域の川の現状を伝えたり、身近な人がボランティア活動をしていることを伝えたりすることで、自分たちにできることは何かを考えさせることができた。

4. 今後の課題

- 他地域に目を向けるというよりは、自分の地域の環境を守るためにという視点で授業が展開してしまった。下流の環境問題の原因が、上流に住んでいる人々の生活と関係があるということを十分にとらえずに授業が展開してしまった。何を考えさせたいのか、そのためにどのような資料を提示するのかということ教師が明確にもつことが必要であった。
- 教師がもっと地域に目を向け、地域を知り、地域の人材を活用したり教材を開発したりしていく必要がある。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 川の上流の地域であることを前提に、授業展開を考えた。

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。